

中村設計新聞

第四十九号

六月二十日(土) 晴れ

今月は、白沙村莊を見学し、

哲学の道をぶらり・・・

○はじめに

梅雨のじめじめした時期が続いています。

さて、今月の土曜研修は、白沙村莊橋本関雪記念館を訪れ、二〇一四年九月に新設された美術館並びに庭園を見学。ゆったりした時間を過ごし世俗を忘れて、哲学の道を散策してきました。

○白沙村莊について



白沙村莊は、橋本関雪が一九一六年から住んだアトリエ兼邸宅です。

居宅・三つの画廊・茶室等の建築物を散りばめた池泉回遊式庭園で、様々な角度から美しい庭園を鑑賞することができます。

また、二〇一四年に開館した美術館は、橋本関雪が晩年抱いていた「展示棟建設計画」を引き継ぎ、現代の建築基準に合わせて実現しました。

○事務所出発

地下鉄

バス

○白沙村莊 見学

←

○哲学の道 散策



梅雨まつただ中のつかの間の晴れ間。日本画家橋本関雪の住まいであった白沙村莊の庭園と記念館を鑑賞に行きました。自分の感性を絶体として、すべてのものが創られていて、しかもそこに居る人にも感動を与える仕掛けがいろいろなところに仕込まれている。池をめぐる建物の配置や開口のあり方が全て大文字との関わりで配慮されている。久しぶりに大満足の気持ちに満たされました。案内して頂いた当主に感謝です。

下西 伊佐男

○橋本関雪について

橋本関雪は、四条派の写実的な動物の描写を取り入れた新南画、新古典と呼ばれる絵画を次々と発表し、大正・昭和期の日本画界において中心的人物でした。

○レポート

○レポート「哲学の道散策」

日本の道百選にも選ばれている哲学の道。哲学者西田幾多郎が散策、思索にふけったといわれています。私たちも哲学の道をゆっくり散策し、もの思いにふけりながら時間を過ごそうと・・・



／歩くの早いぞ～／

／どこー！？／

熊野若王子神社付近から銀閣寺前まで続く琵琶湖疏水沿いの道。桜、紅葉、そして雪化粧が素晴らしいと評されています。



この紫陽花の季節は、螢が主役なのです。橋本関雪白沙村莊見学の後、関雪の妻が苗木を寄付したことからは始まる関雪桜並木道をぶらぶら。哲学を語るほどではありませんが、思いを巡らせるにはいい時間でした。京都は、北から南に傾斜しているので、さすが疎水です、南から北へ流れる不思議さ。そんなことにも気付かされました。でもこの季節なら螢でしょうとつぶやきながら、蹴上まで歩きました。



岩田 信一

○まとめ

天候に恵まれ、白沙村莊の庭園・美術館を見学させて頂き、新たな発見や貴重な体験が出来、素晴らしい時間を過ごせました。そして、梅雨の哲学の道を散策中、紫陽花が主役を演じていました。同じ株から多彩な色で咲き誇る紫陽花のように、所員それぞれの自分色を咲かせ、これからもみんなで前進していきます。

○クイズ

■白沙村莊の庭園は、池泉庭園ですが、庭園の観賞方法は？

① 観賞式 ② 回遊式 ③ 舟遊式

■「哲学の道」の名前の由来になったといわれる日本の哲学者は誰？

① 久松真一 ② 波多野精一
③ 西田幾多郎

答えは次号新聞にてー！

○ゴーヤカーテン

ちらほらとゴーヤが、実り出し、梅雨のむしむしとした感じを和らげてくれています。



▲ 2015/06/22 現在